

講義名	日本語C (書く)			授業形態	
担当教員	石橋 明子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

レポート・論文とはなにかといった基本的なことからレポート・論文が書けるようになるようになる。レポート・論文に必要な能力も身につける。

到達目標

大学生に必要なレポート・論文が書けるようになる。
レポート・論文の書き方を学ぶことで、社会に通じる基本的な能力を身につける。

提出課題

ワークシート、課題作文、ルーブリック等、授業中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

評価の基準

期末試験（30％）、中間試験（10％）、課題の提出（30％）、授業参加度（30％）等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

出欠は毎回とる。全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。遅刻3回で1回欠席とする。15分以上の遅刻は、欠席とみなします。真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版 スキルを学ぶ21のワーク。 泉田てるみ、江亀珠緒、押木和子、勝亦あき子、実教出版 1320 9784407336

その他

授業内でプリントを配布します。

授業計画

1. イントロダクション：授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法、レポート・論文とは何か
2. レポート・論文のルール
3. レポート・論文のルール
4. レポート・論文の種類を知ろう
5. 報告型レポートを書いてみよう
6. フックレポートを書いてみよう
7. 論文を書いてみよう
8. 中間試験実施及びその解説
9. 読解力をつけよう
10. 読解力をつけよう
11. 要約をつけよう
12. 要約の仕組みを新聞から学ぼう
13. 批判的思考力をつけよう
14. 読解力をつけよう
15. 期末試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各プリントに関して、語句の読みや意味を調べ、内容確認等の予習を、毎回120分行ってください。学習した項目を復習および課題を、毎回120分行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目を受講することで、仲間と協同して、物事を成し遂げることができるようになり、人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになります。日本文化を学ぶことで創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材となり、必要な日本語能力を身につけ、活用することができるようになります。知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材の育成につながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考